

市の貯金や借金の状況は？

事業を行うに当たり、市では貯金（基金）や借金（市債）を上手に活用し、事務事業に役立てています。平成25年度末時点で金額は次のとおりです。



財政調整基金への大幅な積み立てなどにより、前年度末の残高額と比較して約23億円、基金額が増加しています。



第三セクター等改革推進債の発行などにより、前年度末と比較して約132億円市債が増加しています。

貯金（基金）の項目	平成24年度末金額	平成25年度末金額
財政調整基金	19億 614万円	39億4,552万円
減債基金	3億7,217万円	3億6,863万円
地域づくり基金	34億 360万円	34億 360万円
ふるさと津山サポート基金	857万円	597万円
奨学基金	8,219万円	8,219万円
人づくり基金	1億9,599万円	1億9,530万円
地域福祉基金	3億2,253万円	2億9,152万円
地域振興基金	2億2,858万円	1億7,722万円
エコプラザ整備基金	2億 325万円	2億 347万円
第三セクター等改革推進債償還基金		5億4,470万円
その他基金	37億5,668万円	35億6,579万円
合計	104億7,970万円	127億8,391万円

借金（市債）の項目	平成24年度末金額	平成25年度末金額
第三セクター等改革推進債		111億6,083万円
臨時財政対策債	169億7,420万円	182億8,434万円
過疎対策事業債	29億7,519万円	29億7,729万円
その他市債	350億4,861万円	370億8,797万円
特別会計市債	415億6,500万円	408億7,430万円
企業会計市債	89億4,300万円	84億1,693万円
合計	1,055億 600万円	1,188億 166万円

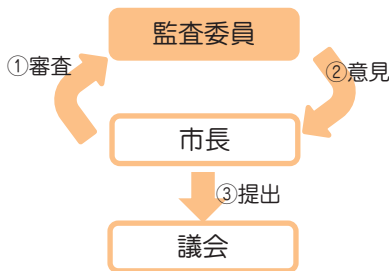
市の財政状況を表す指標は？

着実な行財政改革により、財政指標は一定の水準を保っていますが、今後も改革を継続していく必要があります。

財政指標の種別・説明	平成24年度		平成25年度
<b>財政力指数</b> 地方公共団体の財政力を判断する指数。大きいほど財政力が強い。	0.530	→ 改善！ →	0.538
<b>経常収支比率</b> 財政構造の弾力性を示す比率。70～80%が理想値とされている。	92.6%	→ 改善！ →	90.3%
<b>実質公債費比率</b> 収入に対する市の借金返済の割合を表した比率。18%以上になると新たに借入する場合、県の許可が必要で、25%以上だと借入を制限される。	14.2%	→ 改善！ →	14.0%
<b>将来負担比率</b> 一般会計で将来負担すべき借金額の標準財政規模に対する比率。第三セクター等改革推進債の影響で比率が増加。350%以上で早期健全化団体に。	133.9%	→ 要注意！ →	141.9%

決算提出の流れと決算に対する監査委員の意見(要約)

各会計決算の審査に当たって、監査委員が監査意見を付しています。



市長は、会計管理者が作成した決算を監査委員の審査に付し、監査委員の意見を添えた上で、議会へ認定を求めて提出します。

監査委員  
吉田耕造



代表監査委員  
久常勝實

平成25年度一般会計、特別会計などの決算は、おおむね適正であると認めた。しかし、市税等の収納率に改善は見られるものの、収入未済総額は多額であり、自主財源確保や公平性の観点から全庁を挙げて縮減に努められたい。また、実質公債費比率は改善されているものの、依然として類似都市に比べ高く、土地開発公社清算にかかる起債償還が始まる中では注視すべき指標である。

本市は合併後10年を迎え、さらなる行財政改革とともに、成長戦略による地域産業の活性化と雇用の創出等を重点方針として、官民一体で市政発展に取り組んでいるが、今後策定する第5次総合計画でその実現性を高め、真に「笑顔あふれる ふるさと津山」が築かれることを期待する。